

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立立花吾嬬の森小学校
校長名	向井 一郎

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語科については、「思考・判断・表現」が2・3・4・6学年において、全国平均値をうわまわり、4年においては5ポイント近く上回っている。「主体的に取り組む態度」は、4年生は5ポイント以上高まっている。このように国語の平均正答率が目標値を超えている部分が多く、国語の基礎力が定着していることが読み取れる。・算数科については、特に2，3年が3観点において、平均3ポイント以上上回っており、力が確実に付いていることが読み取れる。・社会科は、第5学年の「知識・技能」が約1ポイント、第6学年の「主体的に取り組む態度」が1ポイント高まっている。・第6学年は、国語、算数において平均を上回っている。社会、理科についても平均との差は5ポイント以内である。・英語については、「知識・技能」が目標値を約1ポイント上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・国語科については、総じて力が定着している中、第5学年の「主体的に学習に取り組む態度」のが全国平均値より、13.1ポイント下回っている。・算数科の「思考・判断・表現」については、4，5年の数値が全国平均値よりも、それぞれ6ポイント以上下回っている。・第4学年は、社会、理科において平均を下回っている項目がある。特に「知識・技能」の数値6.7ポイント下がっている。・第5学年については、国語、社会、算数において「思考・判断・表現」の数値が全国平均値よりも、平均5ポイント数値が低くなっている。各教科の核となる部分である。・学年共通で、長文を読み取る問題で誤答、無回答のない児童が目立った。(平均44%の児童)・第6学年の英語については、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」のポイントが、全国平均値をそれぞれ9.7と15.1ポイントと大きく下回っている。国語力が高い学年であるので、ここを改善していく必要がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・85%以上の児童が夢を持っている。・全校の93%の児童が学校生活を楽しく送り、自分のクラスを好きだと言っている。・どの学年も家庭における生活習慣が整いつつある。家庭学習の提出率も高い。(93%以上)である。家庭の学習への関心も高い。・高学年になるほど、学習意欲が高まっている。毎日の学習が楽しいとしている児童は全校の87%となっている。	<ul style="list-style-type: none">・進んで学習に取り組んでいるとしている児童は、全校の85%であるが、15%の意欲を高めることは最大の課題である。・発表の意欲に関しても81%がその意志がある中で19%の児童の意欲を高める必要がある。・疑問を追求しようとする意欲が、全体では85%であるが、学年が上がるにつれて下がっている。(5年、6年 55%)

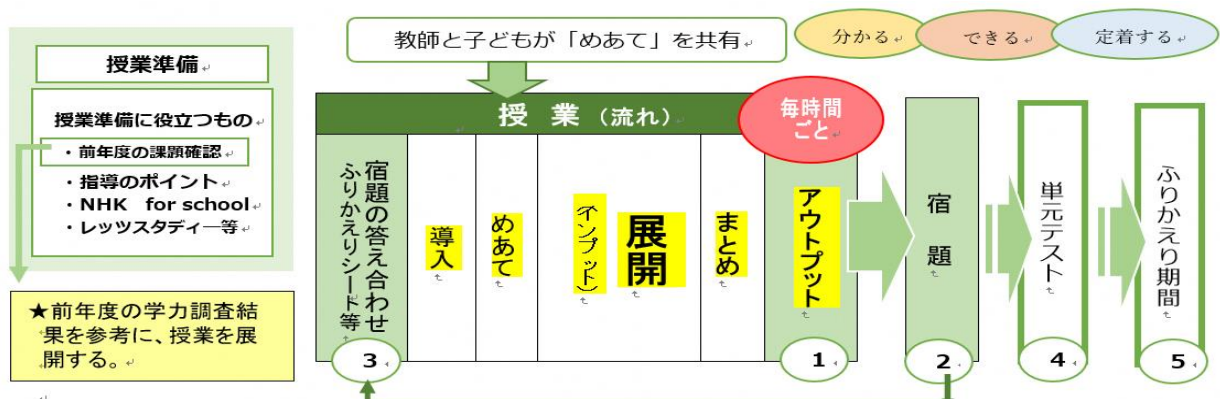
(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・全学級においてほぼ全員の児童が、家庭学習に取り組むことができている。 ・振り返りシートや復習問題に意欲的に取り組む姿が、どの学年でも多く見られている。 ・全校で読書量が増えている。読書への意欲が高まっている。(貸し出しの実績データから) ・課題を見つけ、それを解き明かしていく学習への意欲が見られる。(図書館で調べる学習への意欲が高まり、3年生以上ではほぼ全員が取り組んでいる。) ・「立吾しぐさ」を守ろうという意識が強く、全学年で規範意識が平均値を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出はされていても、取組の仕方に差がある。更に家庭との連携が必要である。 ・ミライシードを使用するタイミングと、その内容を検討し、学習に生かすようにする。 ・学校図書館の本の種類、冊数も増え、利用が増え、読書数も増えているが、選んだ書物が児童の年齢に適していない場合もある。読書の質を高める必要がある。 ・図書を通してはもちろん、ネット上の情報の適切な選択・活用の指導が更に不可欠である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎・基本の定着

- 授業で、インプットした内容を確実に定着させるため、授業の最後に「ふりかえりシート」「問題データベース(社会・理科)」を活用してアウトプットの時間を設定し定着を図る。教科の特性や授業の流れなどを考慮し、一単位時間のアウトプットの時間を5分程度とする。
- 授業の中で、導入場面、調べて考える場面、友達と交流をする場面、そして、考えを深める場面を用意し、単調で教師主導型の授業とならないように事前に計画を進める。
- タブレット端末のアプリケーションソフトのロイロノートやミライシードなどを適宜活用し、児童相互の意見交流や、自学自習を通して、個別最適な学習を進める。
- 基礎・基本の定着のため、計画的に家庭学習を行う。音読(毎日)、漢字・計算ドリル、週末の日記、「ふりかえりシート」等を学年の実態に応じて宿題として出す。授業の最初に答え合わせし、見直しをする(間違えたままにしない)。
- ふりかえり期間には、そこまでに取り組んできた「ふりかえりシート」、「問題データベース」に再度、取り組み、短期記憶を、長期記憶に落とし込んでいく。また、国や区の学力調査問題の過去問を準備し、発展的な問題にもチャレンジしていく。
- 校長が教員の授業観察を行い、授業の最後にアウトプットの時間を設けているかを確認する。



(2) 「読むこと・書くこと・話すこと」の力を高め、言語への関心を高める。

- 「読む力」を高めるために「読書活動」の充実を図り、学校図書館の整備、蔵書の充実を進める。特に、調べ学習に適した書籍を重点的に増やし、「図書館を使った調べ学習」に焦点をあて取り組むことで、「読むこと・書くこと・話すこと」の力を高めていく。
- すべての教科指導の中で自分の考えを自分の言葉で書く場面を設定し、意見を交換させながら、考えを深めさせる。
- 3年生からは、国語以外でも、わからない言葉に関心を向けるようにし、児童の「語彙」が増えるようにし、携帯している国語辞典を積極的に活用していくようにする。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現＝自ら学び自ら考える児童の育成

- 「立吾しぐさ」の徹底、特に「聞き目・聞き耳」を重点とし、相手を意識して話したり、相手の話の内容を理解しながら聞いたりすることを大事にしていく。
- 各教科の学習において、自分で考えたことを発表し、話し合う機会を設定する。各教室に話型を掲示し、自分の考えを発表したり話し合ったりできるようにする。グループ学習や対話型学習を取り入れ、友達の良さ考えを認め合い、協同して学ぶ意識をもたせながら学習を進めていく。
- タブレット端末（ロイロノートスクール）を活用し、子供たち同士の情報の共有や話し合いを効率的に行うようにする。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・ 全ての学年、全ての教科の観点別の平均正答率について、全国平均値に近づける。
- ・ D・E層児童を中学年は20%以内、高学年は現状より5%減とし、B・C層の割合を増やす。
- ・ 国語の記述式の問題について、無回答の児童を15%以内とする。